

辞書にみる女性

－ 国語辞典 共同研究 －

日本語を語集の面から考える際、まず手がかりとなるのは国語辞典である。現行の国語辞典の中で「女性」がどのようにとり上げられ解釈されているかは、非常に興味あるところである。しかし「女性」のとり上げ方、とらえ方をみるには、女性に関する見出し語や語釈をみるだけでは、ものの一面しか把握することができない。「女性」がいかにかに記述されているか、それがどのような意味と意図をもつものか、それを立体的にみるには「男性」が、いかにかに描き出されているか、と対照しながらみる以外に方法はない。つまり「女性」を知ることは「男性」を知ること、そして人間を知ることである。ここで前号の「女性を表わすことば」（遠藤）をさらに深め、対象を広げたかたちで研究調査をした結果を報告してみたい。

今回は呉、小林、坂入、本郷、丸山、三井が、加わり、5冊の辞書から全ての男性・女性に関する記述をカード化し、それをもとにそれぞれが興味のあるテーマを選んで独自にまとめたものである。カード化した5冊の辞書は以下のものである。

『岩波国語辞典 第3版（1979、12）』（『岩波』と略記）

『角川新国語辞典（1981、1）』（『角川』と略記）

『新明解国語辞典（1981、2）』（『新明解』と略記）

『新選国語辞典（1981、1）』（『新選』と略記）

『学研国語辞典（1981、2）』（『学研』と略記）

そのほか、必要に応じて参照した辞書は以下の通りである。

『大言海』、『日本国語大辞典（小学館）』（『小学館大』と略記）、

『学研国語大辞典』（『学研大』と略記）、『広辞苑第2版』（『広辞苑』）

『広辞林第5版』（『広辞林』）、『新潮国語辞典（1980、1）』

（『新潮』と略記）、『三省堂国語辞典（1981、1）』（『三省堂』

と略記）『旺文社国語辞典（1981、1）』（『旺文社』と略記）